

第2回 家庭教育講演会

令和5年7月2日（日）

<主催：島田市教育委員会 社会教育課>

プラザおおるりホールにて、久里浜医療センター名誉院長 樋口 進先生による教育講演会が開催されました。演題は、「親子関係がうまくいくためのゲーム・スマホの付き合い方」です。

世界的に子供たちのゲーム障害やスマホ依存が増えているという現状を聞き、他人ごとではないことを感じました。親子で一緒に使用する時間や場所などの明確なルールを作り、書面にし、目のつく所に貼ることが依存の予防になるということをお話されていました。特に大切なことは、親もそのルールを守るのだそうです。NHKの教育テレビに御出演経験もある先生で、NHKのサイトに放送会の記事が載っていました。興味のある方は検索し、読んでみてください。



第3回 『つながるトーク』

令和5年7月6日（木）

島田市ペアレントサポーターの杉山 里恵 様をお招きし、つながるトーク「聞いて 聞いて 親の心構え」～ひとりじゃないでね 一緒に話そう～を開催しました。杉山様は、御自身の子育てのエピソードを交えながら、70分間の講座を通して学級生のトークを引き出し、つながりを深めてくださいました。



自己紹介では、子供の名前の紹介に「私の好きな時間」、「呼ばれたい呼び名」を添えて伝え合い、和やかな雰囲気での始まりました。

話を聞く親の姿勢について考えるため、台本をもとに子供役とお母さん役になりきり、簡単な劇をしました。

内容は、「子供は朝顔の話を一生懸命伝えているけれど、お母さんは適当に返事。しまいには「早く勉強をしなさい！」と言ってしまう」というものでした。グループ内で話し手・聞き手の二人組に分かれ、「聞き手の2つの姿勢」を体験しました。

話し手は「最近あった嬉しかった話」を伝える。

1回目→聞き手はスマホを触り、相手の顔を見ず、相槌を打たない。

2回目→聞き手は相手の顔を見て、相槌を打って話を聞く。



▲学級生による役割演技

★「聞き手の2つの姿勢」を体験した学級生の感想

- ・話をしっかり聞いてもらえない悲しさ、切なさを自分が身をもって知り、目を見て話を受け止めてあげようと気持ちを新たにすることができました。
- ・忙しい時に話しかけられても話を聞いてあげられるようにしたいと思いました。
- ・普段子供に対して「ちょっと待ってねー！」という言葉が口癖になっていたの、手を止めて話を聞く努力をしていきたいと思いました。
- ・ほかのお母さんたちの考えや子供との接し方、同じようなことで悩んでいるな・・・など、参考になること、勇気をもたらえたことばかりで楽しかったです。
- ・同じ年の子供をもつお母さんたちとお話しできて楽しかったです。
- ・後から振り返ったらあっという間だというこの子育て期を楽しんでいけたらと思います。

最後にペアレントサポーターの杉山様から、「親学ノートは入学前のお子さんと保護者だけでなく、今の子どもたちにも大切なことが載っていますよ。」と紹介していただきました。お手元のある方は、お時間を作って見てみてくださいね。



▲講師の杉山様へ、御礼の言葉（大石学級長より）



第4回 親子読書「うちどく」

令和5年10月14日（土）～15日（日）、21日（土）～22日（日）

読書の秋。うちどく推進月間として、親子読書を楽しみました。〔読み聞かせ、交代読み、子供と親と一緒に読む、同じ空間で各々好きな本を読む〕など、様々な方法で『うちどく』を楽しみました。』

◆誰と→母と子（兄・弟）

◆取り組み方

親子で交代読み、
親からの読み聞かせ

◆本の題名

『おちんちんのえほん』
作／やまもと なおひで、
絵／さとう まきこ
（ポプラ社）

●感想

- ・あかちゃんは、おなかの中で9か月もいるなんてしらなつた。（子供）
- ・「本当は3人兄弟だったんだよね。」（流産した為）「どのぐらいお腹の中にその赤ちゃんいたの？」と聞いてくれ、答えると、「その子の写真ある？じゃあ、ばあばの写真と並べてお菓子置いてあげよう。」と素敵な提案をしてくれました。命の大切さについて学べる本でした。（母）

うちどくカードより

●誰と→母と子

●取り組み方

親子で交代読み

●本の題名

『お正月セブン』
作／もとしいづみ
絵／ふくだ いわお
（世界文化社）

●感想

- ・おしょうがつのおせちりょうりがおいしそうだった。いみがわかった。（子供）
- ・お正月セブンがお正月の遊びやおせち料理の意味を教えてくれて勉強になったね。いつもはおせち料理になかなか手をつけないけど、来年のおせち料理は意味をかみしめながらみんなで食べられるといいね。（母）

●誰と→母と子（兄・弟）

●取り組み方

親からの読み聞かせ
子供からの読み聞かせ

●本の題名

『いたずらコヨーテキュウ』
作・絵／どいかや
（BL出版）

●感想

- ・みんなにいたずらしたからたすけてもらえなかった。でもさいごはたすけてもらってなかよくごはんをたべてよかった。みんなにやさしくしてあげようとおもった。（子供）
- ・弟が保育園から持ち帰った絵本を、2人を膝の上に座らせて読みました。絵本を通してスキンシップがとれ、感想を言い合ったり、家族で触れ合ったりできるとても楽し時間になりました。（母）